

Housing Design

Kobe Shoin Women's University



ファッション・ハウジングデザイン学科
ハウジングデザイン作品集 2008-13

Housing Design

ハウジングデザイン作品集 2008-13

神戸松蔭女子学院大学 人間科学部
ファッション・ハウジングデザイン学科

ハウジングデザイン作品集の刊行について

2008年、神戸松蔭女子学院大学に、ファッション・ハウジングデザイン学科が誕生しました。そのうちハウジングデザイン領域は住居学・建築学をひとつと修めるカリキュラムを用意しています。2014年春に3度目の卒業生を出した時点で、優秀作品を集めたこの小冊子を作成することにしました。卒業研究としての設計作品をはじめ、各学年における演習・実習でのヴィジュアルな成果物を中心に構成しました。

2年生・3年生で独立住宅・集合住宅・インテリアデザインの課題をこなします。そのあいだにCADソフトVectorworksを使えるようにしています。4年生の卒業研究ではさまざまなタイプの設計に挑みます。また、照明や家具の現物を設計し作成するものや研究的な写真集を作成したりもしています。こうしてみると、インテリアから住宅・建築設計・まちづくりに至るまで、学生たちの若く豊かな発想が、作品として結実しているのでないかと自負しています。

カリキュラムや教員の構成のかんたんな紹介も付け加えておきます。感想や批評があれば、ぜひお寄せください。

2014年7月
ハウジングデザイン領域代表
教授 中林 浩

Contents

1st year	1年生作品	3
	「イメージリテラシーⅠ・Ⅱ」 3つの授業紹介		
2nd year	2年生作品	7
	「六甲大月台の住宅」		
	「六甲八幡神社周辺の集合住宅」		
3rd year	3年生作品	15
	「店舗併用住宅のリノベーション」		
4th year	4年生作品	21
	「卒業研究」		
	ハウジングデザインの学び	42
	卒業生紹介	44
	教員紹介	45

1st year

1年生作品

前期 イメージリテラシーⅠ
(生活アート実習)

後期 イメージリテラシーⅡ
(デザインスキル実習)

「生活アート実習」では、身近な生活雑貨の制作を通して、感性と基礎的な造形力を養います。「デザインスキル実習」では、模型制作により様々な空間を表現する課題や、初歩的なインテリアデザイン課題に取り組みます。

ものに対する想いを育む

イメージリテラシー I (生活アート実習)

デザインスキル能力向上の一部として、ごく身近なファッションやインテリア関連小物の制作を行います。イメージやコンセプトを具体的な物として実現するプロセスに習熟すると同時に、実際に制作することを通して“もの”あるいは素材に対する想いを育むことを目的としています。



ピラミッド型ペンダント・木と真鍮板を組み合わせ、ちっちゃいピラミッド!



スティックペンダント・いろんな樹種と透明アクリで…



板チョコペンダント・木と金箔で、おいしそう!



煙突のある家型黒小箱



塔のあるチャペル型黒小箱・縮み空の木の屋根が蓋です



はりねずみペンダント・木目を活かしてハリネズミ!



斜めカットのキュービック黒小箱

生活空間を立体的に把握する イメージリテラシーII (デザインスキル実習)

デザイン関連の基礎学習として、模型制作は重要で、特にハウジング分野では習熟すべき不可欠のスキルです。本実習では2年次以降の多様な模型制作のスタートとして、またパソコンによるCGなどでは表現しにくい空間イメージ把握を目的に、初歩的な模型制作を行います。実習内容は、模型制作の意味の解説と材料や実際の模型作品の紹介から始めて、インテリアと家具模型、住居、店舗などを紙やスチレンボードなどの材料で制作していきます。



スチレンボード模型製作の基本を学ぶ



個別模型による町並みの形成から、空間の掌握と表現方法を学ぶ



茶室の起こし絵を制作する



木造軸組み模型製作を通じて木構造を学ぶ

インテリアデザインの基礎を学ぶ

イメージリテラシーII (デザインスキル実習)

デザイナーズチェアなど、優れた作品にふれながら、インテリアデザインの考え方と表現方法の基礎を身につけます。基本的な図法を用いたドローイングや、平面図、展開図などの2次元図法、アクソメやパースなどの3次元図法を学びます。また様々なインテリアエレメントについてリサーチし、マンション住戸での一人暮らしという設定で、インテリア・コーディネートし、表現する課題に取り組みます。



デザイナーズチェアのドローイング

一人暮らしのインテリア

神谷 真菜



平行透視パース

可愛いものが大好きな女の子のインテリアをテーマに、丸みのある白系の家具を多く取り入れ、ピンクのソファをポイントに。全体的に柔らかさと統一感を出した。



平面図



展開図

2nd year

2年生作品

前期 ハウジングデザイン実習Ⅰ

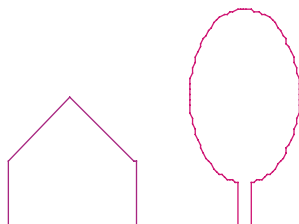
ハウジング CAD 実習

住宅設計の考え方と設計製図の基礎—手描きと CAD による図面表現、模型表現を学ぶこと—から始まり、六甲山麓の眺望のよい住宅地に敷地を設定。各自の構想に基づき、初めての住宅設計課題に取り組みました。

後期 ハウジングデザイン実習Ⅱ

建築デザイン実習

六甲八幡神社境内周辺を題材に、地域性を読み解き、環境を生かした集合住宅や商業施設など、近隣空間のよりよいあり方を提案する課題に取り組みました。

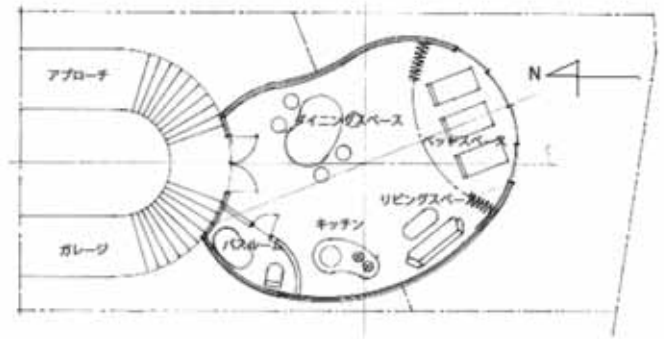




Sky Bean House

今池 姫呂

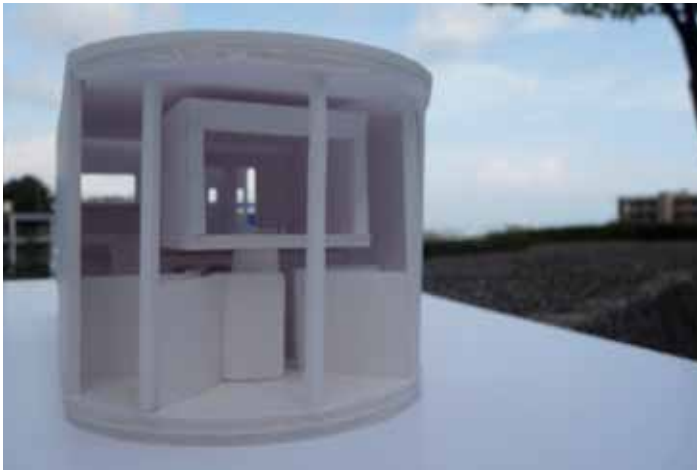
この『Sky Bean House』はワンルームということにこだわりました。一件何処に入っていくのか分からない連続するアーチの入口、秘密基地に入るかのような階段のある玄関、開放的なリビングルーム、ベッドルームに行けば絶景の「空」を見渡せる大きな窓、それが『Sky Bean House』です。



1F 平面図



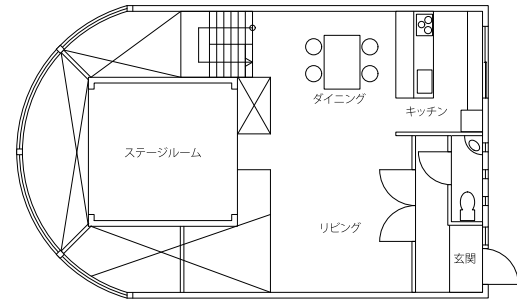
1F 断面図



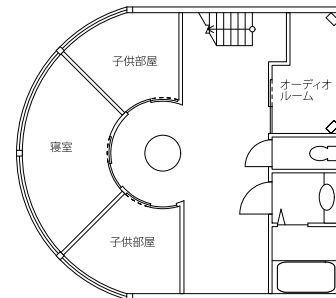
LIVE HOUSE ~ 音楽のある家 ~

山口 菜摘

夫婦2人、子ども2人の家族が、毎日音楽を感じれる家を作った。一階南側には防音されたステージルームを配置した。ステージルームで繰り広げられるライブとバックに広がる景色を同時に楽しむことができるのがこの家の特徴である。



1F 平面図



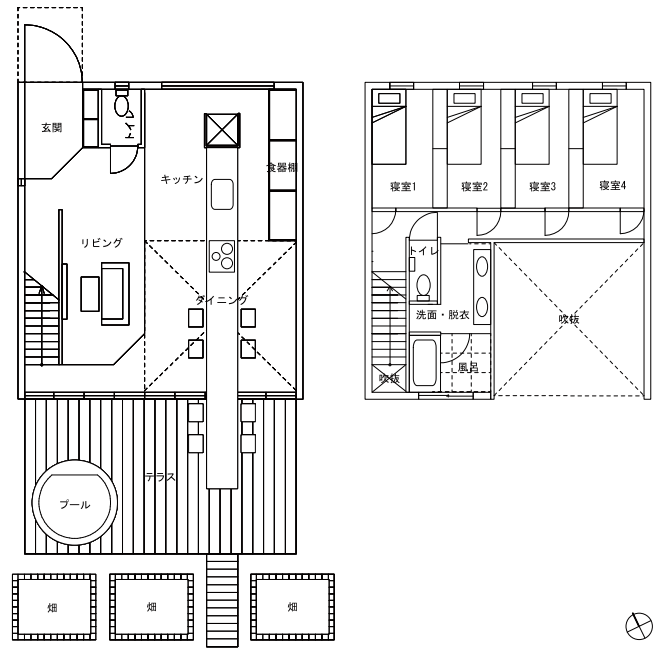
地下1F 平面図



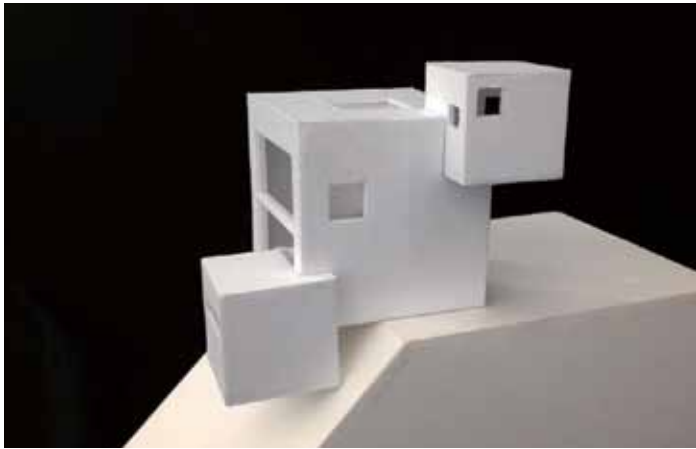
GATHER HOUSE

有働 奈央子

この家は、私と神戸に住む外国人3人のシェアハウスである。住居者でなくても神戸に住んでいる外国人や、住人の知り合いが集まることのできるスペースを作った。この住居の一番の特徴は、キッチンからテラスまで伸びたダイニングテーブルである。10mを超える長さのテーブルは、室内とテラスで使い分けができる。



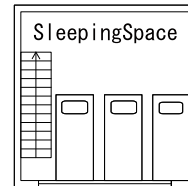
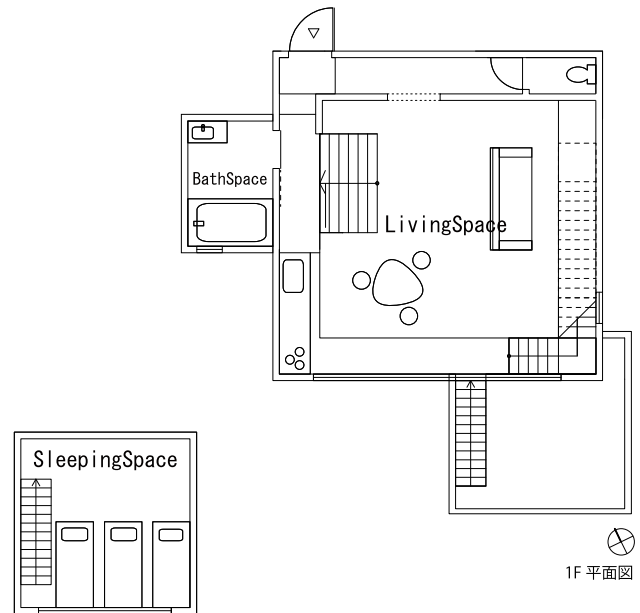
2F 平面図



Cace ShareHouse ~ 時を体感し、空間を分けあう家 ~

小林 柚希

ケース・シェアハウスには3人のクリエイターが住んでいる。朝起きて、ご飯を食べ、仕事をして、お風呂に入り、そしてまた眠りにつく。太陽の動きと共に、階段を昇り降りし、全ての空間を3人でシェアできる。一日の時間の流れを4つの箱によって、体感できるようにつくりにした。

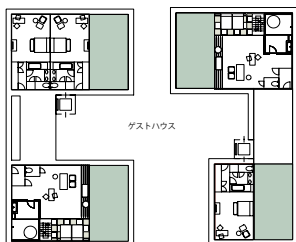
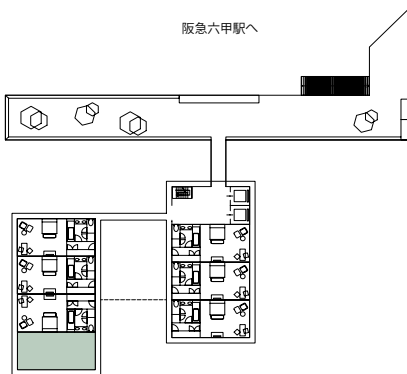


地下1F 平面図

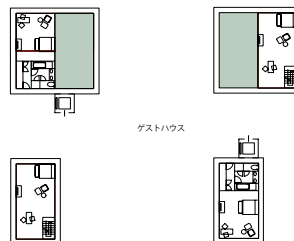
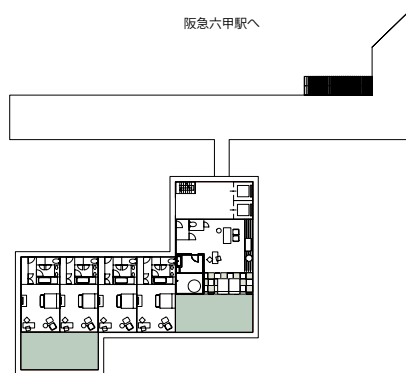
1F 平面図



断面からみたゾーニング図



2階平面図



3階平面図



1階平面図



全体立面図



立面図

YAHATA DINING ~ 高密度商住とゲート性 ~

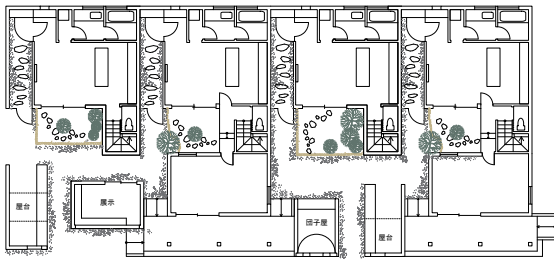
小林 柚希

八幡神社・鎮守の森再生計画の一環として商業施設を設計した。「YAHATA DINING」は、8つのレストランと書店が備わっている。豊かな緑の中で人々が「集い、くつろぎ、食事を楽しむ」ことをコンセプトとして、人々が集い住まうことにより街の新たな魅力創出へと導くことをテーマとした。計画では主に、配置、機能構成、外部空間の演出、敷地内の緑化に着目した。訪れた人たちは、まちの好きな場所で自由に食事の時間を過ごすことが出来るがこの街の魅力である。



敷地図





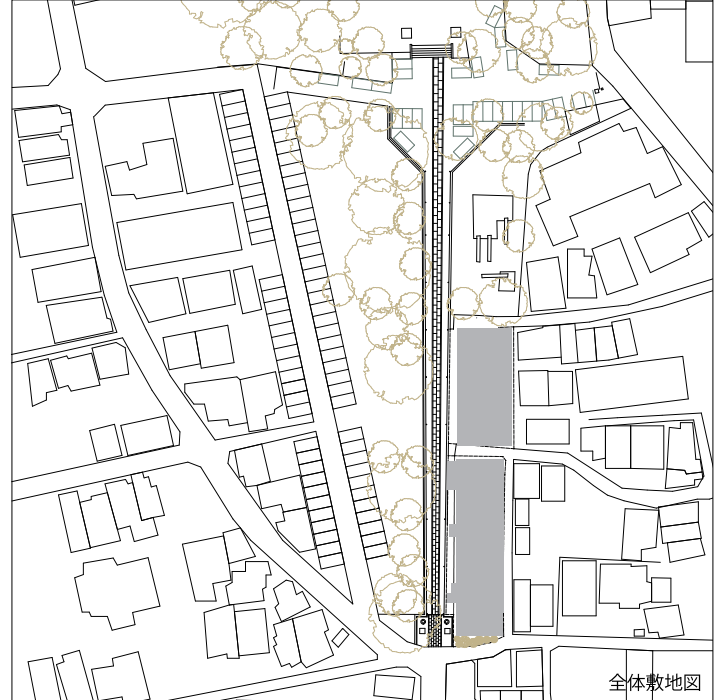
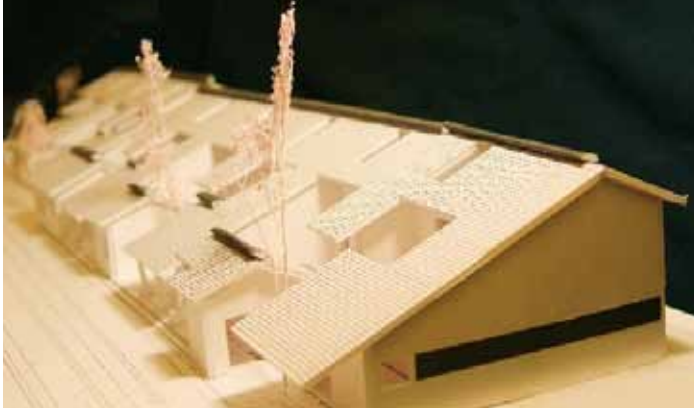
平面図



参道



立面図

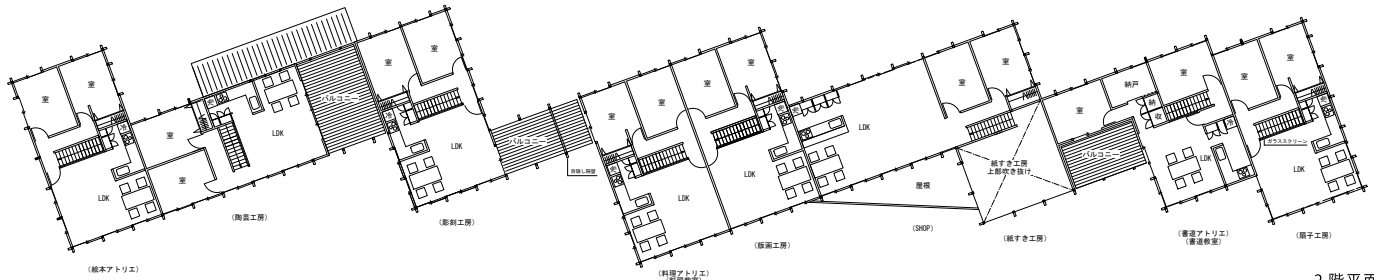


全体敷地図

路地裏の家

山岡 奈央子

今回、私がテーマに挙げたのは、芸術家や店舗が集まる路地裏空間です。そして、その中で人々が安らぎを感じられるような場所を目指しました。また、神社境内の敷地ということもあり、和風の町屋テイストの住宅にしようと考えました。奥行き小さなこの敷地で、路地裏空間を表現するという困難な状況の中で、工房付きの二階建て住宅と、住宅と店舗が分かれている二階建て住宅を設計しました。この二種類の住宅を上手く利用して、路地裏空間を表現しています。



2階平面図

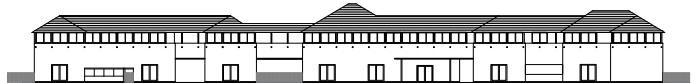


1階平面図

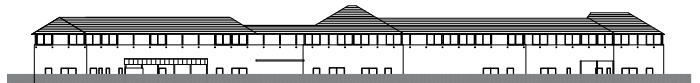
TOGERArtist house

吉岡 沙映

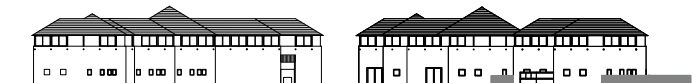
私は職人さんの工房兼その家族が住める家を設計しました。1階に工房、2階が主な居住空間となっています。鳥居側から扇子工房や書道、紙すき工房、版画工房、料理教室があり、彫刻家や陶芸家、絵本作家が住んでいます。工房では、作品づくりはもちろん、体験教室を開いたり、ショップを設けて近隣住民と交流の場にもなります。神社の敷地内ということで、日本らしいアーティスト達が集まる空間にしました。



参道側立面図



裏側立面図

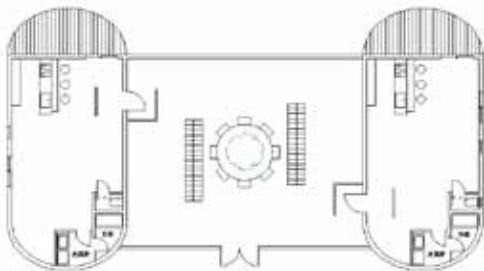


鳥居側立面図

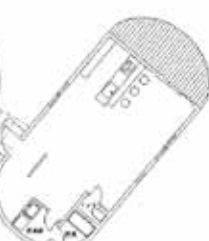
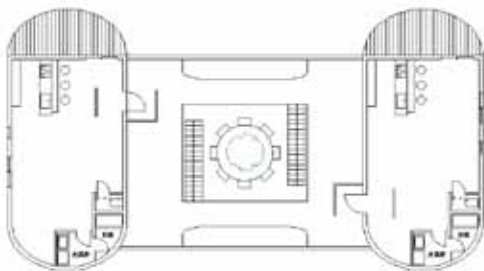
鳥居側立面図



立面図



2階平面図



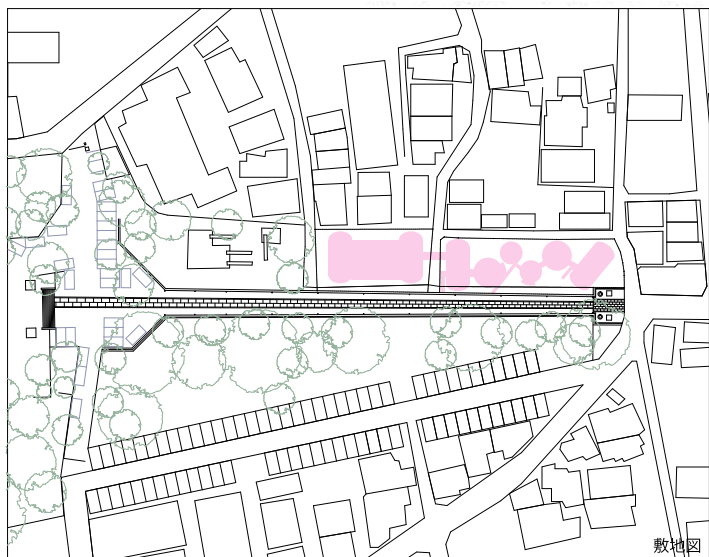
一階平面図



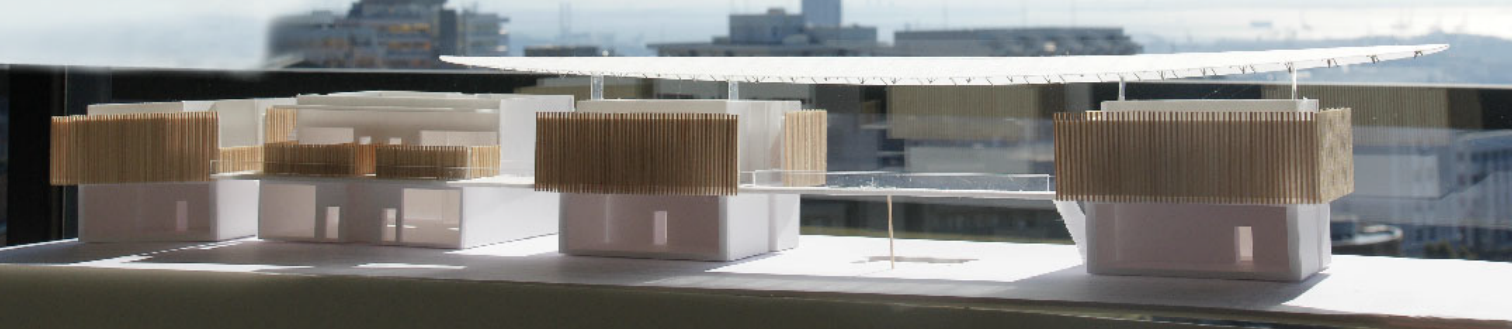
あすれちっく住宅

朽木ひとみ

六甲八幡神社の参道はとても良い雰囲気です。近所の人達の散歩道、通勤・通学路であり、近くには子どもたちが遊べる公園もあります。そんな人が集まる空間を利用して、若い芸術家が住む家を計画しました。丸い形を用いて、柔らかな雰囲気の建物にし、そこに高低差をつけてことで、見た目も楽しくしました。また、建物を自由に昇り降りすることで、かくれんぼや鬼ごっこをして遊んでる子供たちがイメージできるように計画しました。



敷地図



やさしいしかく

山崎 桃子

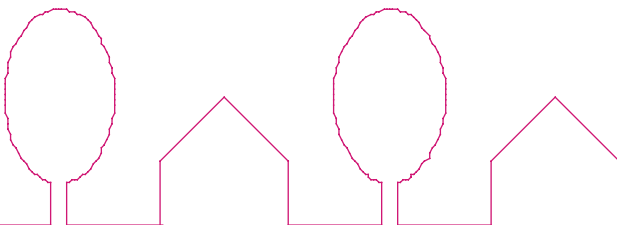
住宅の形は基本的に四角形で硬そうな印象があります。そこで、私は住人同士や、参道を通っている人々、この住宅を訪れた人々がつながり、触れ合える住宅を考えました。この住宅には音楽家や舞踏家が住みます。全部で4棟の住宅がつながっており、そのうち3棟のスタジオ兼住宅、残り一棟の住居を屋根でつなぎ、統一感をもたせています。また、すべての棟に屋上を設け、そこで住人たちがコミュニケーションを取れるスペースを作りました。

3rd year

3年生作品

イメージリテラシーV
(プレゼンテーション演習)
+インテリアデザイン実習

店舗併用住宅のリノベーション計画。立地条件、家族構成などを各自条件設定し、業種・コンセプトなど店舗内容を企画。インテリアについても詳細にデザインし、3Dパースや模型で表現しました。





Dog Cafe komachi

鬼塚 葉月

娘が独立して暇になった両親がゆったり経営しているゆるい感じのドッグカフェ。店内はカジュアルな雰囲気に。グッズも少し販売。住宅地に立地しており、庭には小さいドッグランも完備していて近所の人が気軽に散歩帰りにでも立ち寄れるようなカフェとした。家族構成は、両親+愛犬。





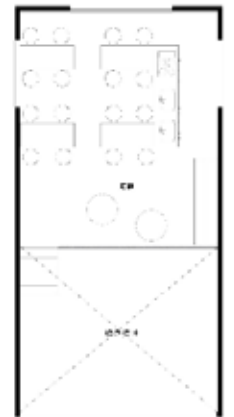
NOVELTY SHOP & CANDLE STUDIO

三藤 綾加

店舗の1階は雑貨屋、2階はキャンドルショップ。南側の壁を一面窓にし、2階を半分程吹き抜けにして、開放感が出るようにした。子どもから大人まで楽しめて、ゆったりとリラックスできるよう、家具は白を基調とし、少し木材を加え、丸い照明のオレンジの光とともに、暖かみのある雰囲気が出るようにした。



1F PLAN



2F PLAN



和敬清寂

山口 菜摘

茶道教室「和敬静寂」は四畳半の茶室、水屋、露地、展示室からなる。茶会を開く際には展示室から一度外に出て、腰掛待合や露地を経て蹲踞で身を清め躰り口から茶室に入る。日々の稽古は展示室から水屋を通り茶室に入ることもできる。

厳肅な雰囲気のある茶室とは異なり、展示室には暖かな空気が流れる。この展示室は季節



節の茶道具を展示するほかに茶道を知るきっかけを作る目的がある。稽古の前後、ここに集まりおしゃべりする。教室の前を通ったからのぞいてみる。量が恋しくなって足を運ぶ。理由は個々で違っても自然と人が集まりおしゃべりが始まる。堅く敷居の高いイメージを払しょくし身近な茶道を感じてもらう。



cadeau — Aroma herb specialistshop

松尾 友以佳

ハーブとアロマの専門店を営む夫婦のための店舗併用住宅である。ガーデニングが好きで、庭では多くのハーブを育てている。cadeau はフランス語で "プレゼント" という意味。日常にアロマとハーブで小さなプレゼントを提供したいという思いが込められている。1F テラスではガーデニングを見ながらお茶ができる。





DECORation



Cake

DECORative



Interior

Cafe Deco

山岡 奈央子

オーナーは、スウィーツパティシエ、可愛いデコレーションカップケーキが自慢の「CAFE DECO」。そのケーキの様に、内装もオーナーこだわりのアンティーク家具や照明、壁紙などでデコレーションされている。その一角で、ハンドメイド作家を目指す3人の美大生の作品がディスプレイ販売されている。



4th year

4年生作品

卒業研究

4年間の学びの総仕上げとして、各自のテーマを設定して深く研究し、作品制作または論文にまとめます。ハウジングデザイン領域には3つのゼミがあり、インテリアデザイン、住居全般、まちづくりと幅広い対象の中から、各自の興味や問題意識に従い、テーマを見いだして取り組みました。



京都の都心のある店舗、広告も多くデザインもバラバラだが、高さが抑えられてなかなかいい。(山下恵里奈)



屋台の魅力——仮設型店舗の合理性・機能美、省スペースでどれだけ工夫できるか、屋外での食事はキャンプのような味わいがある。(永井花奈)



ものづくり都市、東大阪市はあまりきれいな都市だとはいわれないが、たくさんの魅力的な場所がある。(山本真緒)

魅力的な風物を求めて

研究写真帳というジャンルを開拓している。芸術写真集よりは分析的であり、研究論文よりは感性でとらえたものも大切にする。言葉だけではいい表しにくい生活空間の魅力や問題点を写真撮影により追いつ求めている。実際の行政で用いられているデザインのガイドラインはきわめて硬直化したものだが、ほんとうに肝要なのはなにかを探っている。



高架道路を撤去して清溪川がよみがえった。高架の橋脚のモニュメント。(由田麻奈)



アニメ『Free!』



アニメ「Free!」の舞台、島根県岩美町まで行って来た。すばらしく一致。(岸田亜希)



アニメ『四畳半神話体系』



宮崎駿は具体的な地域を土台にしなが、普遍的な地域の魅力を探し出している。二セ舞台が多いのもその地域の風景や建物が魅力的でジブリの作品と重ね合わせて見てしまうからだ。(原実希)



台湾の九份は『千と千尋の神隠し』の舞台だと宮崎はっていない。



『耳をすませば』の舞台、聖跡桜ヶ丘。



『となりのトトロ』の棲家。



『となりのトトロ』の七国山は東京都東村山市にある八国山をモデルとしている。

作品の舞台探訪・聖地巡礼

昔から小説の舞台を訪ねるような旅行はあった。近年アニメの舞台を若者がめぐる。なぜフィクションなのに、これほどまでに現実を忠実に描写するのだろう。現実離れた話でも、リアルな空間のあり方こそ、作者の創造力をはぐく

むバネとなるようだ。アニメにもなっていて、荒唐無稽な小説に思える森見登美彦の小説『四畳半神話体系』などでも、京都市域のなんでもない風物を題材にしている。



敷地図

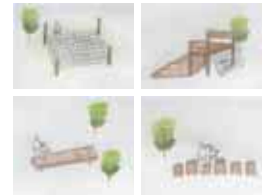
親と子供の交流を重視した仁川植物園の運動公園への再生提案

奥川 英里子

仁川植物園は2005年に閉園してからはただの空地となり閑散としている。そこで、空き地を利用してかつての活気あふれた空間に戻すことを考えた。親子の交流が出来る、子供に必要な運動能力を使うことが出来るなど、ひとつひとつ考え制作。親子の交流を深め、思いっきり自由に遊び、達成感を味わい、子供の運動能力が向上することを旨とし、一度だけでなく仲の良い人たちも誘って、何回も来たくなるような楽しい施設を企画した。



わんぱく広場の遊具



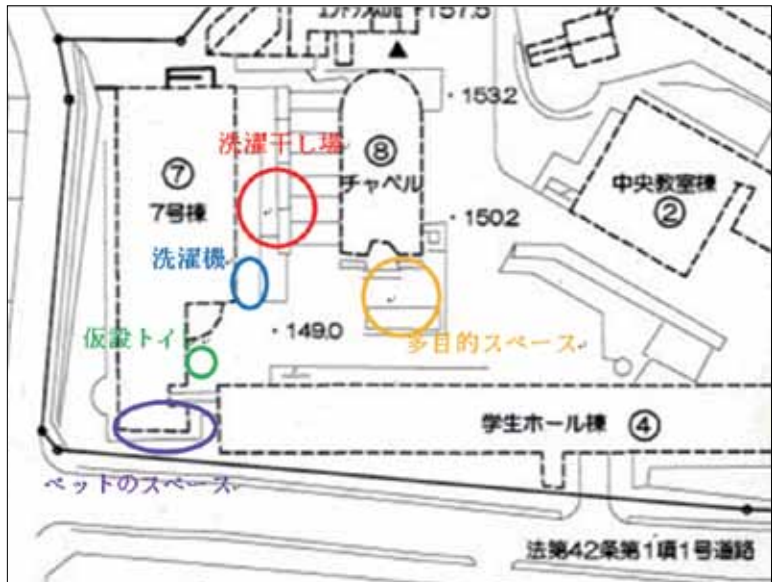
ミニアスレチックの遊具



フィールドアスレチックの遊具



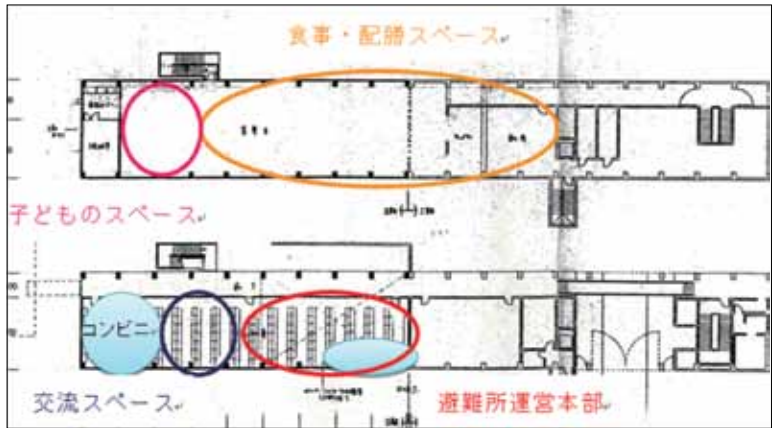
神戸松蔭女子学院大学キャンパス
4号館(左側)・7号館(中央)・チャペル(右側)



屋外の利用プラン



7号館の利用プラン



4号館(食堂棟)の利用プラン

災害時の避難場所としての松蔭キャンパス整備提案

山口 菜摘

いつ来てもおかしくない地震などの大災害。阪神淡路大震災では1100の避難所に32000人も避難者が生活していた。体育館のような広い場所での生活、プライバシーや騒音、硬く冷たい床での生活などさまざまな問題が発生する。非日常である避難所でも人として最低限の生活ができる必要がある。大学を避難所として快適に使用するための整備提案をする。



就寝スペースでの段ボールベッドの利用



コーポラティブタウン・ジェームス山

松尾 友以佳

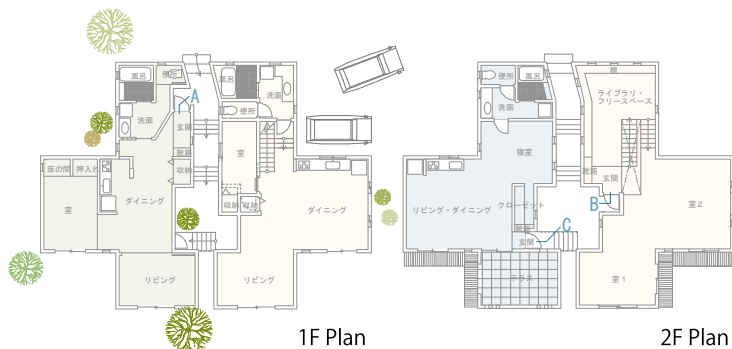
ジェームス山は、神戸市西部を代表する高級住宅地である。1930年頃より英国人ウィリアム・ジェームスが垂水区塩屋町付近の海岸沿いの丘陵地に、自邸を含め外国人の為に住宅地を開発したことにその由来がある。淡路島や明石海峡大橋を望む眺望が開けており、豊かな緑と点在する洋館により、きわめて美しい環境が保全されている。ここで敷地として設定したのは、老朽化した初期の外国人住宅群の跡地である。伝統ある外国人コミュニティの存続と、これに調和する新たなコミュニティ像、環境に調和する街並みを模索し、3戸1型と環状型の集合住宅群を計画した。



旧ジェームズ邸



敷地付近から明石海峡大橋、淡路島を望む



1F Plan

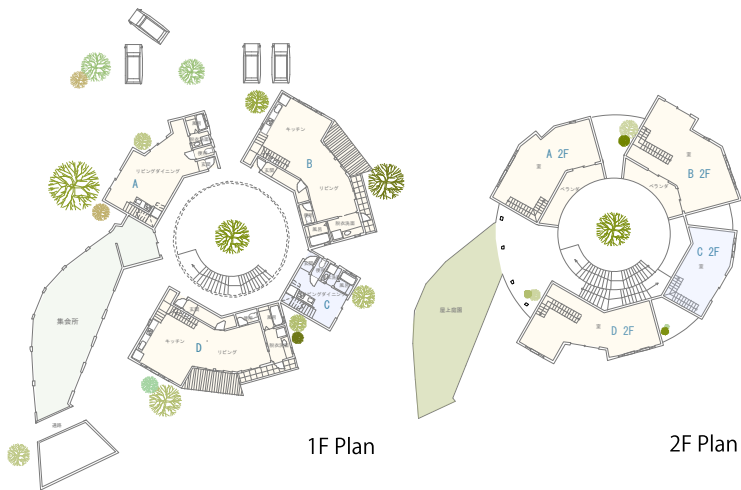
2F Plan

+house

3世代が住まう
路地のある家



高齢者向け [A]、ファミリー向け [B]、独身世帯向け [C] の
3タイプが一つになったデザイン



1F Plan

2F Plan

*house

屋上庭園のある
集合住宅

- ・ガラス張りの集会所ではさまざまなイベントが行われる
- ・集会所の2F、住戸3Fの上は屋上庭園・展望台として活用
- ・住戸は2人世帯想定 of [A]、ファミリー層向けの [B][D]、
単身者向けの [C] のタイプで構成



SITE Plan



Section

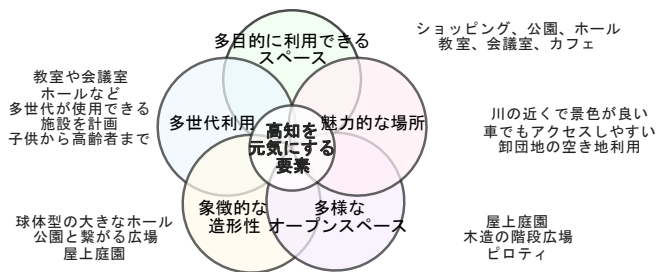


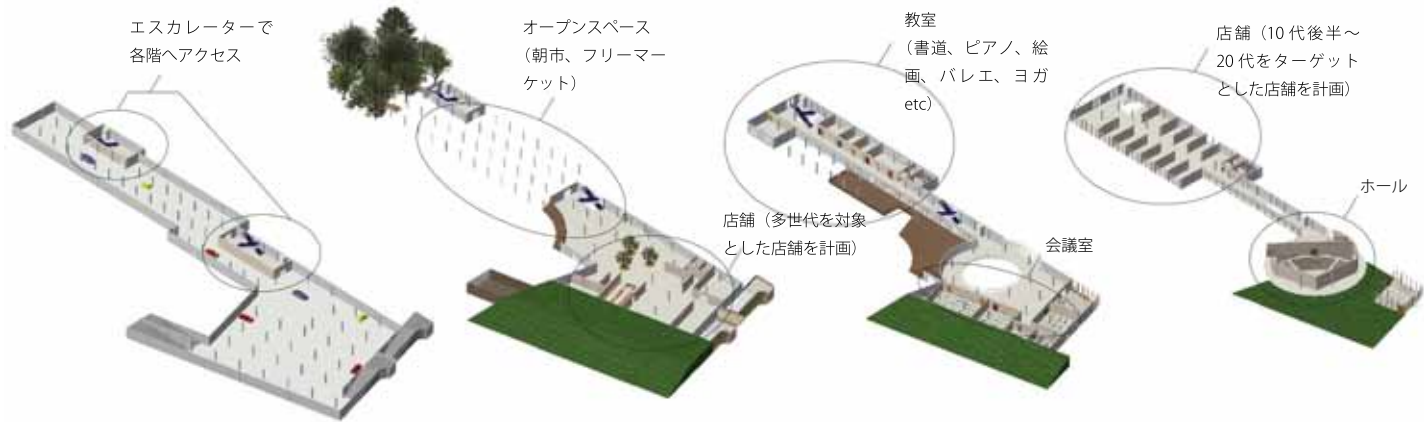
Sphere & Parks in 卸団地

岡崎 瑠里子

高知を元気にするコミュニティセンターの計画。私の生まれ育った高知は、自然豊かで食にも恵まれたよいところだが、人口の減少・大型店舗の出店で繁華街は衰退して行き、私たちの年代が買い物をしたり、遊んだりする場所が少ない。若者が県外へ出て行き、ますます県内の高齢化が進み、活気がなくなっているように感じる。このような状況を少しでも食い止め、地域のコミュニティの核となる場所を作りたいと考えた。市内の川の近くで景色が良く、車でもアクセスしやすい卸団地の空き地に敷地を設定し、多世代が利用できる複合的な施設を設計した。

地域のコミュニティの核となる条件





B1F 駐車場

約 90 台が収容できる。
西側と東側の 2 か所に出入口を設ける。
車椅子用の駐車場も設置している。
地下に車を止めることで、周囲の景観も損なわない。

1F 店舗、オープンスペース

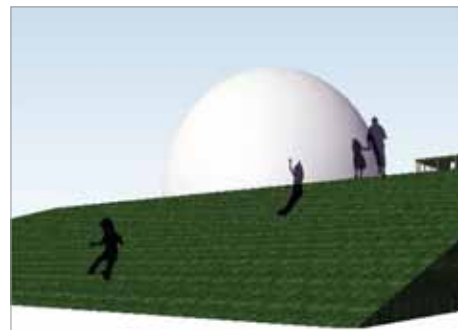
1 階は通りすがりの人が何気なく足を踏み入れてくれるような店舗を配置した。
子供スペースは、屋台や駄菓子屋など、お年寄りでも親しみやすい場所を作ることで世代を問わず楽しめたらと思い作った。オープンスペースは、曜日時間を決めて朝市やフリーマーケットを行い、市民の拠り所となる。

2F 教室・会議室スペース

教室は曜日、時間を決めて色々なことを習える場所。会議スペースは、卸団地の組合員の方が会議をしたり、近所の方が話し合いをする場合にも使用できる

3F 店舗、ホール

ターゲットは 10 代後半から 20 代。あまり服屋がない高知でおしゃれな店を入れることで若者の活気を出す。
ホールは約 230 人収容できる。2 階の教室スペースで習ったことを発表したり定期的に映画を上映したりと、市民の交流の場となる。
カフェからは川の景色が楽しめる。



立面図



断面図

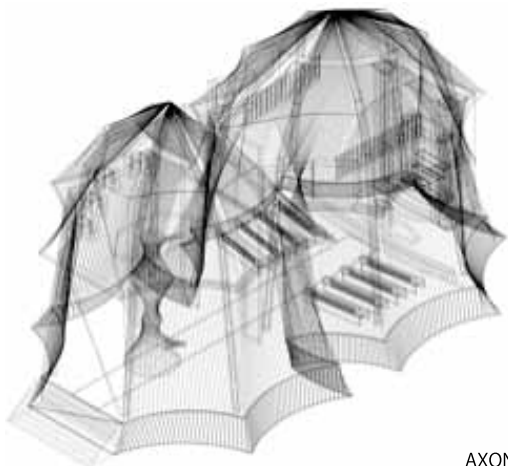
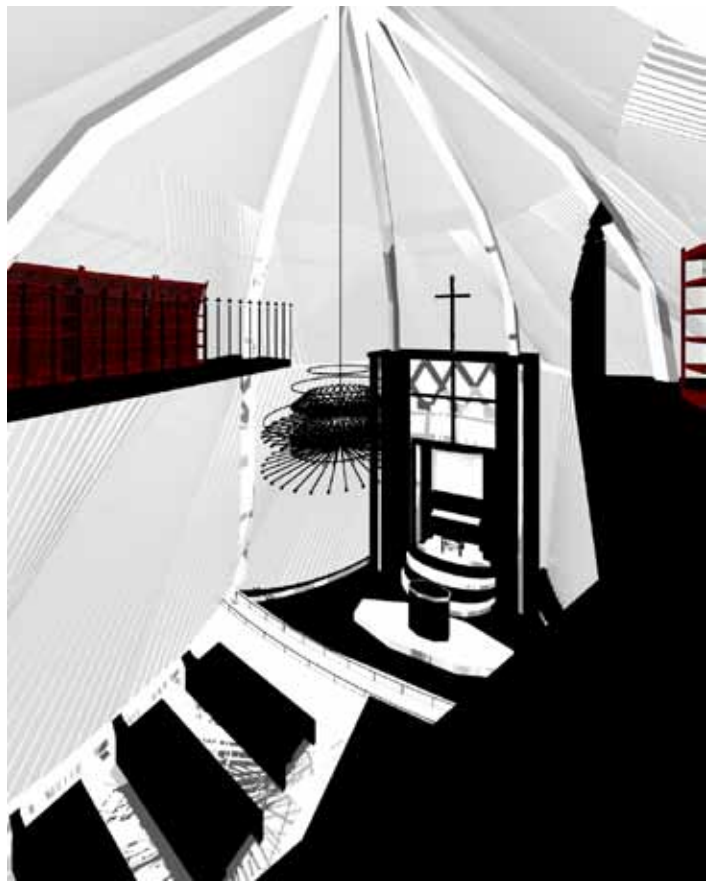
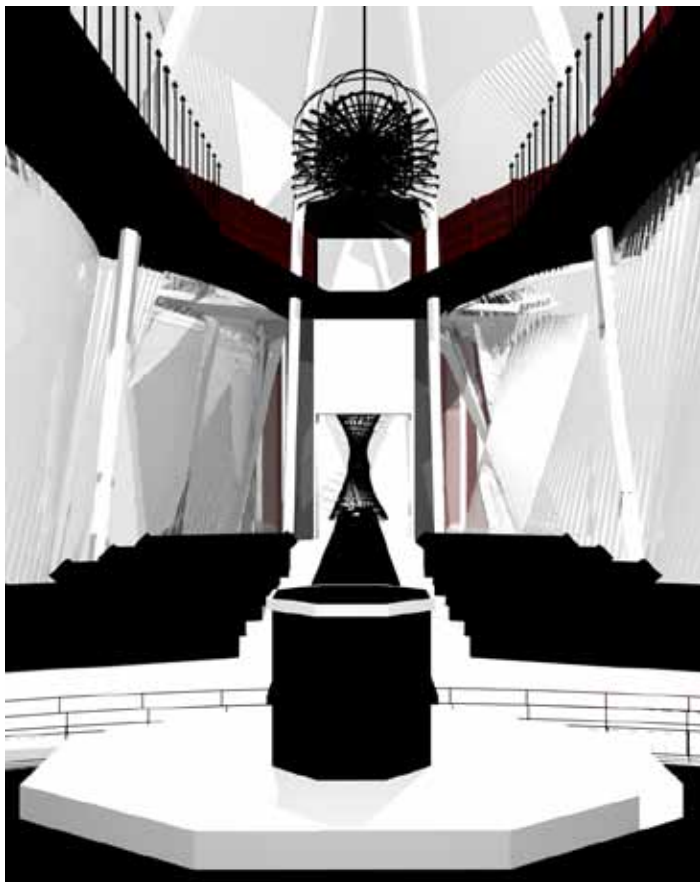


Web Chapel —八千穂高原の礼拝堂—

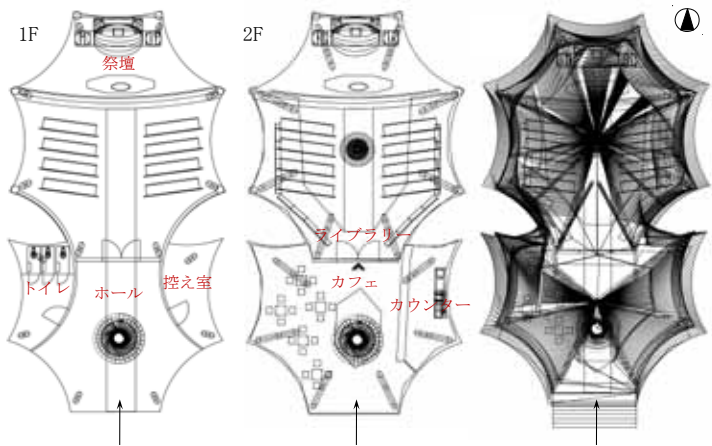
松尾 由香子

Web = 網状組織、入り組んだ関係。クモの巣や木の枝先など、線と線が重なり合ってきたシルエット、影には独特の美しさがあり、惹きつけられるものがあると私は感じる。そんな自然のパターン、線の交差美を、高原に建つ礼拝堂の空間に取り入れ、自然の中に溶け込む建築になるよう試みた。敷地設定は日本で最も美しい白樺林があるといわれる長野県八千穂高原自然園内。外皮は鉄筋のケージとガラスとし、黒を基調とした聖堂にライブラリーとカフェを併設した。結婚式や季節ごとのイベント、日常の礼拝など、心を安らげたい人々が集う場所となることをめざした。





AXONOMETRIC



1F

2F

祭壇

トイレ

ホール

控え室

ライブラリー

カフェ

カウンター



PLAN



アルフォンス・ミュシャのミュージアムレストラン 杉山 智子

アールヌーヴォーのデザイン、中でもアルフォンス・ミュシャやミハエル・トーネットの作品に興味を持ち、それらを取り入れた空間デザインを試みた。堺市文化館内のミュシャ館は、多くのミュシャ作品を常設展示しており、向かいの東雲公園内にこの美術館とあわせて楽しめるレストランを計画した。公園の環境を生かすため、開放的でシンプルな設計としたが、構造フレームをトーネットチェアをヒントにデザインしたり、ミュシャのポスターデザインを基にモザイクタイルのパターンを制作し壁面に使用する等、現代建築にアールヌーヴォーのテイストをとり入れた。



アルフォンス・
ミュシャ
(1860-1939)

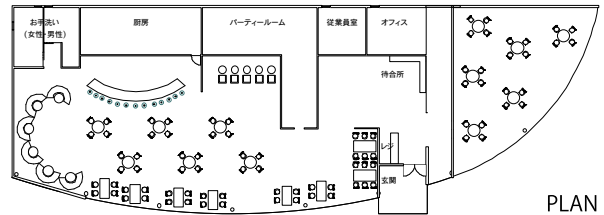
多くのポスター、装飾パネル等を制作したミュシャの作品は、星、宝石、花などの様々な概念を女性の姿を用いて表現するスタイルと、華麗な曲線を多用したデザインが特徴である。



「ジスモンダ」



「黄道十二宮」



照明器具もアールヌーヴォー期のデザインを使用



ミハエル・トー
ネット
(1796-1871)

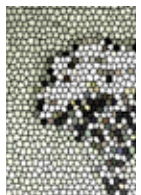
曲木の技法を発明し、これを工場で大衆生産した。代表的な椅子は「no.14 (1859)」やロッキングチェア。曲木の曲線の美しさと機能性を最大限に発揮し、多くの人々に愛された。



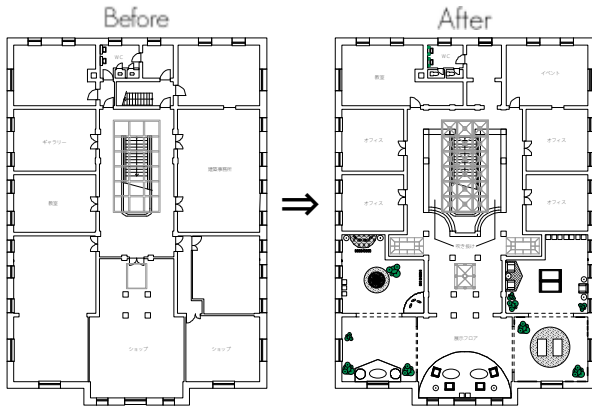
「no.14 (1859)」



ロッキングチェア



ミュシャのポスターの背景デザインからモザイクタイルパターンを制作



3F PLAN



旧居留地・海岸ビルヂングのリノベーション

山岡 奈央子

旧居留地にある明治期の名建築、海岸ビルヂングを、新たな神戸デザインの発信源として活用する提案。戦後に失われた竣工当時の内観を復元しながら、現代のデザイナーたちの活動、発信の場として再生する。私自身もデザイナーの一員として、1Fにインテリアショップを開くと設定。海岸ビルヂングの空間を活かしながら、オリジナルデザインのエレメントを用いた空間提案を行った。共用空間は、図面調査に基づき、竣工当初のダイナミックな吹抜けを復元し、デザイン展示に適した開放的な空間とした。またインフォメーションのための外構まわりの整備も計画した。



海岸ビルヂング



エントランス現状



Octagon Lantern

Berries

Ring Shadow

Onion Lamp

Furniture Collection



Little Legs



Eyes Chest



Chess Chair



Baby Back Plate



Back Boon Lamp



古民家 Cafe ～地域活性化のために～

徳田 有加

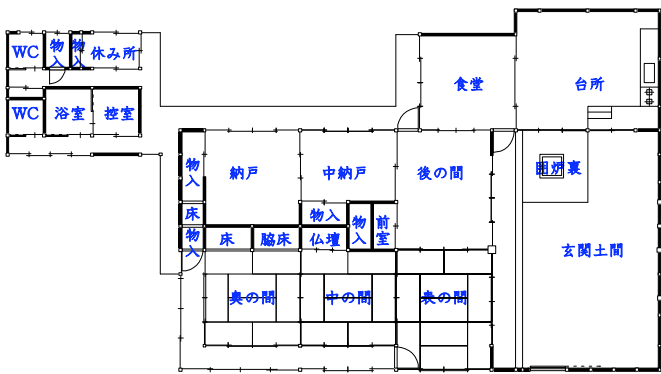
3回生の秋に鳥根県邑智郡の「稲積邸」で行われた古民家再生プロジェクトに参加し、これをきっかけに私は地域再生について考えるようになった。人の集まる場所を提供することで地域活性化につながるのだと実感。私はこの古民家を利用し、café、教室、ギャラリーを計画した。古民家の良さを生かしながら、活気ある空間をつくることをめざし、〈古民家×モダン〉をコンセプトに、外観は現状維持、内装は、使いやすく現代的なインテリアエレメントを織り交ぜた。アクセントカラーはこの地域の赤州瓦をヒントに赤のバリエーションを使用し、アレンジした。



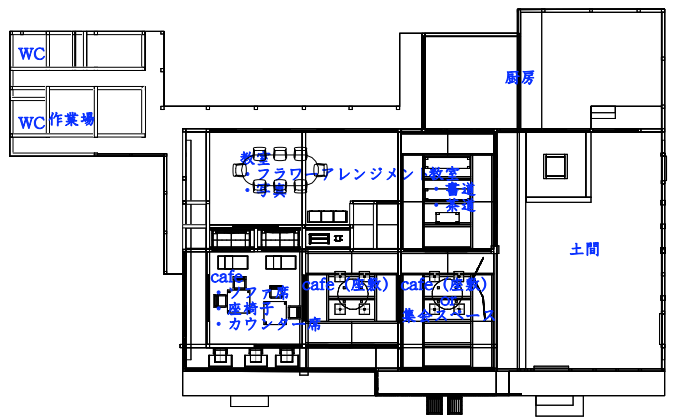
鳥根県邑智郡の古民家「稲積邸」外観



「稲積邸」内部現況



現況平面図



改修後平面図



立面図

インテリア計画



色彩計画



家具コーディネート



Violin Chair (ヴァイオリン チェア)

井上 智景

椅子の中でも長年多くの人に愛され続けているウインザー・チェアに惹かれ、長く使える椅子を自分でも作ろうと思った。ウインザー・チェアの中には、背板部分を糸車の形とするなど、シンボルを織り込んだデザインのものがある。これを参考に、ヴァイオリンが大好きな私と、音楽好きの人の為に、ヴァイオリンをモチーフとした椅子を考えました。座面は、季節ごとに着せ替えて楽しめるようにし、植物モチーフ柄の生地を春・夏・秋・冬と4種類作った。滋賀県米原市の浜田工房で制作指導を受けながら、1/5スケールの模型2種類と、実寸大の椅子1脚を制作した。



ホイルバックウインザー・チェア



ヴァイオリンの曲線美をモチーフに



コーディネート・イメージ



座にはウィリアム・モリスのデザインなど植物柄の生地を使用。
季節ごとに着せ替えて楽しむ



ホワイト

ナチュラル

ブラウン

ブラック

カラーバリエーション

Flower light

Flower light

鬼塚 葉月

インテリアの中でも照明一特に和紙で作られたり、花をモチーフにしたあかりに魅かれる。そのように心を穏やかにさせてくれる優しく柔らかな形、素材、色彩を用いて、癒しのあかりをデザインした。多面体の形を元にパズルのようにモジュールを組み合わせて作る「IQ light」を参考に、花びらの形になるようにモジュールをデザイン。素材は、樹脂強化和紙を用いてプリンターで着色し、30枚組み合わせてシェードを制作した。アジサイ、ナデシコの2種の花のモチーフをつくり、カラーや器種のバリエーションと、それらを用いた癒しの空間イメージを提案した

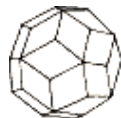
Flower light の
4つのデザイン要素

多面体

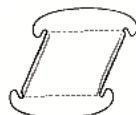
花びら

和紙

影の効果



菱形三十面体



モジュール

IQlight (1973年 / ホルガー・ストロム)

デンマークの名作照明。菱形三十面体の菱形を元にしたモジュールを組み合わせる事により、様々な形のシェードをつくれる優れた造形システムである。

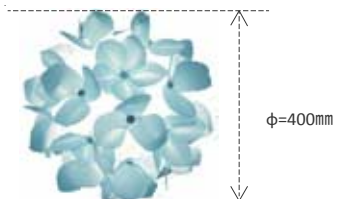
2種のデザイン



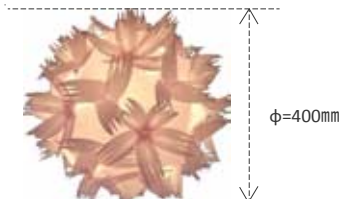
アジサイ



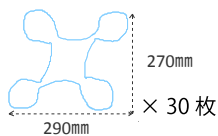
ナデシコ



φ=400mm



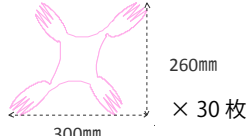
φ=400mm



270mm

290mm

× 30 枚



260mm

300mm

× 30 枚

アジサイのモジュール

ナデシコのモジュール

バリエーション



ペンダント



テーブルスタンド



フロアスタンド



ハウジングデザインの学び

カリキュラム／授業・活動風景

ハウジングデザインは、私たちの住まいや身近な生活空間のよりよいあり方を考える分野です。家具、照明などのインテリアエレメントから、様々な住空間、スケールの大きなまちづくりまで、幅広く学びます。

カリキュラムはインテリア・住居・まちづくりの3分野に、共通のベースとなる建築基礎を加えた4つの科目群で構成されます。それぞれに講義科目、演習科目、実習科目が設けられ、総合的にハウジングデザインを学ぶことができます。講義科目では、住居学、建築学の様々な知識を学び、演習科目では、文献や雑誌を読んだり、建築見学や街歩きなどの体験レポート、企画書作成等に取り組みます。実習科目では、様々な課

題の作品制作に取り組み、手描きやCADによる製図、模型、パースなどにより、イメージした空間を表現します。そして出来上がった作品は、みんなの前で発表し、トータルなプレゼンテーション力を養います。

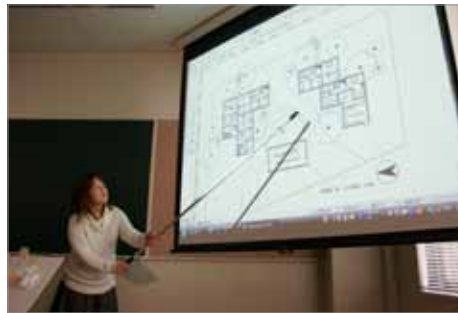
3年以降は、いずれかのゼミに所属し、各自の興味あるテーマに取り組み、卒業研究として作品または論文にまとめます。インターンシップでは、建築実務の現場を体験。また二級建築士やインテリアコーディネーター等の資格取得を目指す人をサポートしています。2013年度入学生（6期生）以降は、カリキュラム改編により、インテリア系科目や実習科目をさらに充実させ、作品のレベルアップをはかっています。



ハウジング業界の各方面で活躍する先生方の授業があります



設計は建築家の先生から丁寧な個別指導を受けてすめず



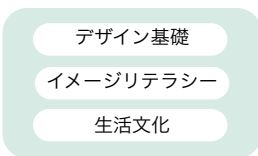
設計した作品をプレゼンテーションします



京都でのグループ見学（2008年夏）

カリキュラムの流れ

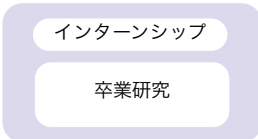
基礎段階
1～2年次
(共通領域)



展開段階
2～3年次
(ハウジング
デザイン領域)



統合段階
3～4年次



開講科目（2014年度ハウジング領域・共通領域専門科目）

ハウジングデザイン概論 まちづくり論 ヒトとデザイン 生活文化概論 ライフスタイル論 デザインの仕事 阪神デザイン論	FHD 基礎演習 A・B イメージリテラシー入門 イメージリテラシーⅠ・Ⅱ Ⅰ/生活アート実習 Ⅱ/デザインスキル実習
ハウジングデザイン論Ⅰ ハウジングデザイン論Ⅱ 建築計画学 景観論 住文化論 住居史 建築一般構造 構造力学 建築材料学 建築施工学 建築関連法規 室内環境論 生活福祉学	生活防災学 住宅再生論 生活エコロジー論 家族社会学 インテリアエレメント論 インテリアスペース論 ガーデニング論
ハウジングデザイン実習ⅠA・ⅠB ハウジングデザイン実習ⅡA・ⅡB ハウジングデザイン実習Ⅲ・Ⅳ インテリアデザイン実習	イメージリテラシーⅢ・Ⅳ・Ⅴ Ⅲ/イメージリサーチ演習 Ⅳ/カラーコーディネート演習 Ⅴ/プレゼンテーション演習 ハウジングインターンシップ デザイン特別演習(プレゼミ) 卒業研究(ゼミ)



少人数の授業が多く、先生との距離が近いのが特徴です



デザイナーズチェアなど教室にはインテリア教材がたくさん



イメージリテラシーII (デザインスキル実習) の制作風景



製図は手描きとCADの両方を学びます



モケイづくりに集中!



各学期末には実習作品の発表講評会を開催



毎年11月には松蔭際ハウジングデザイン展を開催



卒業研究展。展示と発表を行います



震災関連シンポジウムでの発表



旧居留地で歴史的建築を見学 (2009年夏)



ゼミ旅行でアートの島、直島へ (2011年)



飛騨高山/復元されたフィン・ユール邸にて (2012年)

卒業生紹介

2012-14 卒業生インタビュー

神戸松蔭のファッション・ハウジングデザイン学科でハウジングデザイン領域を専修した卒業生たちは、大学での学びを活かして多方面で活躍しています。

今回、1期生から3期生までの卒業生のうち、5人の方に、近況や大学在学中のことについて、お話を聞きました。



小紫 円香

1期生
2012年卒

卒業後、同級生の徳田有加さん（右）と一緒にアトリエジグソー（建築設計事務所）に勤務

私は入学当初はファッション系を志望していましたが、必修科目の「ハウジングデザイン概論」という授業で、建築のすばらしさや奥深さを教わり、とても興味がわき、ハウジングデザイン領域に進みました。授業は実習や演習が多いですが、課外授業も充実しているので自分の目でみて感じることで、創造力がとても身につきます。また先生と生徒の距離が近く、たくさんアドバイスを頂けることでデザイン能力の幅がより一層広がるのも神戸松蔭での学びの魅力です。製図室からみる神戸の景観はとてもすばらしいので課題などをするとときはとてもオススメの場所ですよ。



山岡 奈央子

2期生
2013年卒

株式会社 Y's design 建築設計室 勤務

私は住宅やビルの設計を手がける事務所で働いています。今のところ図面の修正や施主さんとの打合せへの同席、サンプル準備など、アメリカ人デザイナーの上司のもとでのアシスタント的な業務がメインですが、事務所が手がける化粧品会社の本社ビル設計のプロジェクトにも参加させていただき、充実した日々を過ごしています。大学時代に卒業制作をはじめ、さまざまな課題設計を妥協せずに作りあげた経験は、今の粘り強さにつながっています。建築は街をつくるものがあり、社会貢献につながるもの。その意識を忘れずに仕事を続けたいと思います。



井上 智景

社会人編入生
2013年卒

株式会社 国際確認検査センター 勤務

ハウジングデザインに興味を持ち、3年次より社会人編入しました。松蔭は先生と学生との距離が近く、何でも気軽に話ができる環境で、個人の考えを尊重してくださるので、納得のいく課題作りが出来ました。在学中に宅地建物取引主任者資格を取得。卒業研究では、ウィンザー・チェアを参考に、ヴァイオリン・チェアを制作しました。貴重な経験で、自分の財産となりました。現在は、先生のお力添えにより、建築確認検査機関で働き、忙しい日々を過ごしています。二級建築士資格の取得も目指し、経済的にも精神的にも自立した女性でありつづけるよう、頑張っています。



山口 菜摘

3期生
2014年卒

大阪の工務店でリフォームアドバイザーとして勤務

私の仕事は、リフォームアドバイザーとしての営業職がメインですが、プランニングをしたり現場で職人に指示を出したり、お客様のご希望を具体的な形にしていく業務です。インテリアから建築構造、設備機器まで幅広い知識が必要なのでまだまだ勉強の日々です。リフォーム会社に就職希望したのもハウジングデザイン領域の実習・講義がきっかけです。これからの住生活のあり方や可能性などを学びリフォーム業界に興味を持ちました。神戸松蔭で学んだ知識や経験を生かしてどんどん活躍していきたいと思っています。



黄 喜玲

中国からの留学生
2014年卒

株式会社 国際確認検査センター 勤務

松蔭に入学したことを昨日の日のように思います。課題・テスト嫌いでしたが、おかげで色々な知識を身につけることができました。卒業作品では先輩方と同じく、私も精一杯頑張りました。4年生前半はまだまだ余裕と構えていましたが、後半、時間が足りず大変でした。先生にも遅くまで付き合っていたいただき、何とか完成することができました。今振り返ると、やはり余裕を持って計画し、取り組むべきだったと思います。現在は、建築確認検査機関で働いています。松蔭で学んだことを活かし、更なるステップアップを目指して、建築士資格の勉強もしているところです。

教員紹介

ハウジングデザイン領域

ハウジングデザイン領域の担当教員は、多彩な顔ぶれにより構成されています。基礎演習や卒業研究は、3人の専任教員が担当。その他の講義・演習や実習授業では、実務の現場で活躍している建築家や各方面の専門家の講師陣も多数担当。実践的で役に立つ授業を行い、実習助手もきめ細やかにサポートしています。

非常勤講師（2014年度）

中村 博明 中村博明建築設計事務所 主宰

岸 一 アトリエジグソー 主宰

十亀 啓 インテリアデザイナー

永村 悦子 園田学園女子大学准教授

矢代 恵 MEG 建築設計事務所 主宰

長瀬 りか RH+計画研究室 主宰

川瀬 琢己 一級建築士事務所ユニットワン 主宰

吉田 文男 一級建築士事務所アトリエフォルム 主宰

井上 晋一 井上晋一建築研究所 主宰

植田 道則 株式会社 竹中工務店 設計部 勤務

黒田 達雄 黒田達雄建築研究所 主宰

笠原 一人 京都工芸繊維大学工学芸科学研究科助教

加茂 みどり 大阪ガスエネルギー文化研究所勤務

清水 光次 清水計画室 代表

高坂 憲治 地域計画建築研究所大阪事務所勤務

蔵田 優美 京都工芸繊維大学大学院博士後期課程在学（2009-13年度本学ハウジングデザイン領域 実習助手）

専任教員

中林 浩 教授 京都大学大学院工学研究科博士課程建築学専攻修了博士（工学）
専門分野：都市計画学、まちづくり

増永 理彦 教授 京都大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻修了博士（学術／大阪市立大学）
専門分野：高齢者居住、マンション再生など住居全般

米原 慶子 専任講師 大阪市立大学生活科学部住居学科卒業
ケイズアーキテクト・夙川アトリエ主宰
専門分野：建築設計学、インテリアデザイン

実習助手

鈴木 亮太 筑波大学大学院博士前期課程
芸術専攻建築デザイン領域修了



Housing Design

ハウジングデザイン作品集 2008-13

神戸松蔭女子学院大学 人間科学部
ファッション・ハウジングデザイン学科

発行日 / 2014年7月25日

発行元 / 神戸松蔭女子学院大学 人間科学部

ファッション・ハウジングデザイン学科

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町 1-2-1

表・裏表紙絵 / 山岡奈央子

編集・デザイン / 米原慶子・鈴木亮太

印刷・製本 / 福田印刷工業株式会社